

宇賀地洋子の歩み

画廊さんから声がかかると 何処へでも出かけて個展をして来ました。北は仙台 南は淡路島 外国はパリへ 9月の個展で69回目になります。就活で面接した編集長さんから「あなたね、雇ってあげられないけど、さっきのおっばい話が面白かったから版画と文章にしてらっしゃい」と言われて、雑誌「手作りママ」に「宇賀地洋子のおっばい話」が載ったのが約30年前・・・それを見て声をかけて下さったのが国立市の画廊「荘」さんでした。始まりは母と子の版画のみ、徐々に木彫も増えるにつれて 彫ると言うことが少しずつわかって来た気がしています。初めて彫った木彫から42年も経ってしまいました。

母は昔から勝手に夢を語って応援してくれています。「洋子は平和の母子像を彫って人の役に立つんだ〜」と。。。これからは母の夢の世界も彫れそうな気がしています。母を語り母子像を彫ることは胸の奥がスツとして嬉しくなります。ずっと支えてくれている家族始め皆様に感謝し、鑿を握れる限り彫り続けて行きたいと思っています。今までもこれからも 心よりありがとうございます。by 洋子

ホームページ：<http://www.16.plala.or.jp/ugati/> 木彫りギャラリー



平和の母子像（クス・160 cm）制作中
白州「あおぞら共和国」設置予定



神山奉子著「さすらひ人奇譚」表紙



「母子まんだら」



木彫「母子像」



「宇賀地洋子のおっばい話」から